

地域子育て支援拠点研修事業 「敦賀開催」

〈開催概要〉

- 開催日 平成22年11月21日(日) 10:00~16:30
- 会場 敦賀市福祉総合センター 「あいあいプラザ」
- 主催 財団法人こども未来財団・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・福井県・敦賀市
- 協力 NPO法人子育てサポートセンターきらきらくらぶ
- 参加者数 121名 (行政42名、NPO/任意団体50名、他団体・企業21名、その他8名)

○開会挨拶 10:00~10:10

◆主催者挨拶

財団法人こども未来財団 研修事業部 次長 岡林一枝さん



岡林一枝さん



◆開催地挨拶

敦賀市長 河瀬一治さん



河瀬 一治さん



○プログラム1：基調報告 10:10~10:40「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室室長補佐 鈴木健吾さん



鈴木健吾さん

地域子育て支援拠点事業の概要と位置付け、「ひろば型」の実施状況、また、国の施策や動向についてデータに基づいた説明がありました。また、子育て支援を巡る最近の動きとして、「子ども・子育て新システム」についての説明をいただき、子育てを社会全体で支援するための新たな仕組みができつつあるという現状を伝えられました。

○プログラム2：基調講演 10：45～12：00

「地域子育て支援拠点事業における活動の指標『ガイドライン』について」

日本福祉大学 教授
渡辺顕一郎さん



渡辺顕一郎さん

渡辺先生より、「地域子育て支援拠点事業における活動の指標<ガイドライン>」を参照しながら説明がありました。「地域によって子育ての環境や背景、内容はそれぞれ違うので、最低限の指標としてガイドラインを設けた。これからの時代それぞれの地域で、子育てに何を求められているのか、何が必要なのかを把握し、“親子・家庭・地域社会の交わり”を作っていかなければならない。支援者は利用者を温かく迎え入れ、利用者同士が互いに支えあい、育みあえる関係（ピア・サポート）づくりに取り組むことが大事。また、子ども同士のかかわりを見守るとともに、地域の大人とのかかわりができる環境づくりに努め、利用者の生活背景を理解しながら信頼関係の構築を目指したい。支援者は利用者の気持ちに寄り添い、受容し、対等な関係で自己決定を促すように努め、子ども同士、親同士、地域の様々な人たちと、子育て家庭をつなぐ“架け橋”として地域子育て支援を行っていくことが望ましい。」と語られました。

○プログラム3：分科会 13：00～15：30

◆第1分科会 『みんなが過ごしやすい居心地のよい拠点づくりのために』

【講師】 関西学院大学 准教授 橋本真紀さん

【コーディネーター】 NPO法人くすくす 理事長 安田典子さん



橋本 真紀さん



安田 典子さん

コーディネーターの安田さんと橋本先生から自己紹介と第1分科会のテーマについての説明があり、その後、グループワークを行いました。

グループワーク①「居心地のよい環境とは？」

各自が思ったことをすべて記入した付箋紙を模造紙に貼り説明。同じ内容ごとにまとめ、グループごとに発表しました。

橋本先生よりまとめ

「子育て支援拠点では、①安全・衛生的(清潔)な環境 ②情報提供する ③日差し・季節感などやささぎの環境 ④おもちゃ・本(絵本・育児本・雑誌)など共有できるものを置く ④迎え入れる時のわかりやすい表示や見通しのよい場所であること。」といったポイントの説明がありました。

グループワーク② 「あなたならどうする？」

携帯の操作に熱中している親に対して、どのように声をかけるかを付箋紙に記入し説明しながら模造紙に貼る。グループごとに発表。

安田さんよりまとめ

子育て支援拠点は家と同じ生活の場であり子どもと親と一緒に過ごす居心地のよい場所である。

利用者は自分を受け入れてくれるか(利用者同士・スタッフに)不安をもって来ている。

スタッフの一言が人的環境になる。親子のための支援拠点(ひろば)である。

スタッフは自分自身を客観的に観ることが必要であり自分自身を知ることが必要。

子育て支援拠点は「**もらい愛の場**」である(利用者同士・利用者とスタッフ・スタッフ同士)

橋本先生から分科会まとめ

居心地の良い場をつくることは 利用者・スタッフともに**拠点のストレングス(それぞれがもつうまく生きていく力)**に気付くことである。

◆第2分科会 『さまざまな子育て支援のかたち』

【コーディネーター】NPO 法人子育てサポートセンターきらきらくらぶ 理事長 林 恵子さん

【事例報告】NPO 法人子育て生活応援団 理事長 橋 薫さん

【事例報告】NPO 法人ふらっとスペース金剛 代表理事 岡本 聡子さん



林 恵子さん



橋 薫さん



岡本 聡子さん

・橋さん事例報告

子育て生活応援団と「多胎児サークル」風っ子KIDSの紹介があり、応援団ティールームやおとあわせなどの活動報告。支援には「当事者性」「日常性」「多様性」が大切との報告がありました。

・岡本さん事例報告

子育てしている当事者がこんなものを作りたいという思いからできた、「ふらっとスペース金剛」のあゆみの報告のあと、「一緒に子育てヘルパー」や「一時預かり」などの活動報告がありました。活動の中では、「当事者性」「個別性」「柔軟性」を大切にしているとの話がありました。

・コーディネーターの林さんより、きらきらくらぶ「親子きらりんひろば」の活動の紹介がありました。

グループワーク

- ① グループごとに利用者がどのような支援を必要としているかを紙に書いて出し合う。
- ② グループごとに必要とされていることに対しどのような支援が出来るか。出来たらいいと思うことを紙に書いて出し合い全員に発表。

参加者より質問

受身である親にどの様に働きかけていけばよいのか。

岡本さん…例えば、あるといいなと思うすべり台の写真を見せてみんなで作ってみようという気持ちになるよう声かけをするという様に当事者が動き易い声掛けをする。

橘さん…スタッフが忙しく動いていると利用者から声かけがあり、手伝ってもらうことがある。いつもスタッフが十分に何かをしてあげられる状態で待っていることはない。

参加者…お母さん方が得意とするものを生かせるようスタッフが引き出していく。

参加者へ一言

岡本さん…当事者性、個別性、柔軟性を大切にしていきましょう。利用者をお客さんにしないで、ママの情報にアンテナを張るといったことが大事だと思います。

橘さん…子どもにとって夢を与える大人に会わせてあげてください。これからは年齢に関係なくいろんな人が来るひろばになるのではないかと思います。

林さん…ひろばの大きさや来る人たちの層などそれぞれのひろばによって違いはあるけれど、当事者が求めているものは同じだと思います。それぞれの良さを生かして、これからも利用者さんの気持ちに添えるひろばを運営していきましょう。

◆第3分科会 『拠点スタッフの役割・スタッフに求められる力』

【講師】 日本福祉大学 教授 渡辺 顕一郎さん

【コーディネーター】 NPO 法人子ども NPO 和歌山県センター理事長 岡本 瑞子さん



渡辺 顕一郎さん



岡本 瑞子さん

☆コーディネーター 岡本瑞子さんのお話

『ひろばに地域のいろいろな人が集まってきました。「こどもは遊んで育つんだな…」と、父母が実感しているのを感じます。スタッフと利用者の関係は対等な関係が望ましく、「先生」と呼ばないのもいいと思います。「支える」と「教える」は違う。つながること、寄り添うことが大事。スタッフと話をすることで、利用者が安心できるようにしたいと心がけています。「みんなひとりずつ違う、違っていい」「みんな同じ苦労をしている」この2つの発見は、逆の様だけど、どちらも大事！「知っているスタッフだから話せる」「あまり知らない間柄だから話せる」どちらもあるのではないのでしょうか。利用者同士の関係において、初めて来た人に声をかけられる人は、自分がそうしてもらって、嬉しかった人だと思います。ちょっとしたきっかけで、子育てトークが始まることも多いと思います。』など、日々の体験から感じるお話を聞くことができました。

グループワークでは、6つのグループに分かれ、2つのテーマについて意見交換をしました。初めてひろばに来た親子を迎えるとき気をつけていること、行っていることの発表の後、感覚を刺激する遊びの紹介をしました。書き出すと、同じような内容でしたが、みなさんの思いが詰まったお話がたくさん聞けました。

☆渡辺先生からは、地域とのつながりということで学生ボランティアや富山のデイサービス『この指とまれ』の紹介がありました。学生ボランティアが入ると、いつもと違う遊びができる。また、普段使わない感覚を使うことができる。子どもたちは、男子学生のダイナミックな遊びが好きとのことでした。「この指とまれ」の紹介では、老人と子ども達が相互にいい影響を与え合っている関係についてお話がありました。

参加者から渡辺先生への質疑応答

Q：ひろばにスタッフがいることによって、お母さんが子どもを見ていないこともありがちですがどう思われますか？

A：おかあさんにとっても息を抜くことが必要な場面もあり、それで、お母さんも元気が出ることもあるだろう。ひとりひとりその時その時によって、ニーズが違うことを忘れないで。

○プログラム4：全体会 15：40～16：25

分科会総括・ディスカッション

【コーディネーター】 関西学院大学 准教授 橋本 真紀さん

【報告者】 第1分科会 NPO 法人くすくす 理事長 安田典子さん
第2分科会 NPO 法人子育てサポートセンターきらきらくらぶ 理事長 林 恵子さん
第3分科会 NPO 法人子どもNPO 和歌山県センター理事長 岡本瑞子さん



橋本真紀さん



安田典子さん 林 恵子さん 岡本瑞子さん

各分科会から、テーマに沿って話し合われた内容が発表されました。支援センター、ひろば、行政担当などいろいろな参加者がいる中、それぞれ利用者の立場に立ってひろばをどう運営していくか前向きな話し合いがされていました。

行政として敦賀市役所の児童家庭課の白木久光さんが「子どもの成長は、時間がかかる。お父さんやお母さん、いろんな考えを持っている方を、いかに支援していくのが、大切だと思う。」福井県健康福祉部子ども家庭課の河上芳夫さんが、「実際に、研修に参加してみて、子育て支援は、理論ではなく、実践だと感じた。それを念頭に、やっていきたい。」と、思いを語られました。県と市がそれぞれの役割をしっかりと担当され、手を取り合って子育て支援に携わっていることがうかがわれる場面でした。

コーディネーターの橋本真紀先生は、「実践を積み重ねて、議論をしていくことが大切。現場のみんなと、ガイドラインを使って、パワーアップしていけたらと思う」と、まとめられました。

〇閉 会：16：25～16：30

閉会挨拶 NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事 安田典子さん



安田典子さん



第1分科会



第2分科会



第3分科会



郷土料理のお弁当